

して我等は本書を繙くことによつて、いかに國內のあらゆる階級の民人が一致して國力の涵養にあたつてゐるか、さうして世界の何所と貿易をどういふ風にやつてゐるのか、之を一言にして日本内地と對外交渉との生きた地理を教へられるのであるから、何といつても有難い著書であるといはねばならない。我等は本書の至る所に於て正確な統計數字の上から正しい農業や工業各般の認識をふかめると同時に對外發展のいかに進みつゝあるかを教へられる。地理の教授をする人々はまづかうした著述に親んで、然る後に世界を我國民の活躍する舞臺として教授するやうに心得なくてはなるまい。勿論かうした經濟的貿易關係のみが教授の主體ではないけれども、我等の努力に伴つて、いかにそれが對外價値を生ずるかを知らしむるだけでも本書からうける利益は大きい。筆者は本書を世に問ふた三菱研究所の多くの研究員に絶大の感謝をさし

けるものである。(藤田)

### ○現代新疆

ネダーチン著 中平亮譯 滿鐵經濟調査會發行 定價二圓二十錢

南滿洲鐵道株式會社經濟調査資料第七十九篇として昨年六月五日發行されたのを、最近に入手した。ネダーチン氏は現に滿鐵調査委員であるが、ロシアの領事として十五年、後に支那稅關吏として十年の長い月日を新疆に過ごした人で其後も新疆省主席楊增新の顧問をやつてゐた人だから新疆を語るに申分のない人といつてよい。従つて譯者がいふやうに或は

通り一邊の人の旅行記程の面白味はなくとも、その語る所はすべてこれ金玉の文字であらう。

四六版三四二頁、その目次は新疆概觀、境界、行政、地方及び諸都市、住民、ロシア人、英露の暗闘、新疆とロシア、交通、經濟、一九三一—三四の回教徒の反亂、及び結語の十二章から成立し、特に住民について詳述されており、昔て清朝から西境警備のために派遣された滿洲人の子孫二十萬以上も住んでゐることを語り、その祖國の今日と對比して無限の感慨をよせてゐる。最後に英露の葛藤と、經濟資源が論じてある。本書を得て我等ははじめて、新疆が明にされた。我等はこゝで一應この方面を見直さなくてはならぬと考へる。最後に新しい地圖もついてゐることを報告しておきたい。

(藤田)

## 雜報

### ○昭和十年度 文檢地理科本試験問題

筆答問題

- 一、氣節風地域に特有なる山形及び耕作景を説述せよ。
- 二、下北半島より北上山地を經て牡鹿半島に至る地域の地誌を説述せよ。
- 三、シベリヤにおける東西交通の幹線と開拓との關係につきて説述せよ。

四、ポーランドの一般文化景域を説述し其の政治地理的諸問題に論及せよ。

五、ペルーの地誌を述べよ。以上四時間  
 口答問題 第一日(十二月二日)

第一室 アフリカ洲暗射圖板を用ひて、列國の勢力關係を説明せしめ特にエチオピアを繞ぐる英伊紛争に論及せしむ。

第二室 支那の掛地圖を示し北支の資源に就て説明せしむ。

第三室 シヤムの寫眞を示めし、其の氣候、人種、植物の特性を説明せしむ。

第四室 六百萬分一日本内地畑分布圖を示し、田において米の裏作としての冬作を營まない地方を指摘せしめ其の各地域につき地理的關係を述べしむ。

第五室 「岸和田」五萬分一、「内畑」(二萬分一)の二圖幅を示し縮尺の異なる同一地域に就て、田及柑橘畑の分布出現の地形等を讀圖せしめ、更に「大阪東南部」(二萬五千分一)「堺」(二萬五千分一)の二圖幅を示して、大和川の舊河床に於ける現象、溜池等に就て觀察せしむ。

第二日(十二月三日)

一、オーストラリアの掛地圖を用ひて、同大陸に於ける氣候地形と産業との關係を教授せしむ。

○濠洲對日本貿易 一九三五年度は日本から濠洲へ輸入が増加したが、濠洲から日本への輸出は減少したので貿易上のバランスは段々とよくなつてゆくものらしい、則ち

濠洲より日本へ輸出 日本より濠洲へ輸入  
 一九三三年 九、一五六、四五四磅 三、五三六、五八一  
 一九三四年 一、一〇二、七九八 三、六七六、七三七  
 一九三五年 九、六三三、五二〇 四、六一〇、七五五  
 で日本から輸出の三倍にあたる濠洲品が日本へ輸入されてゐたので、主として羊毛の輸入である。但し本年度の輸出額が減少したのは、羊毛價格の低落したためで、羊毛そのものの輸出量は前年百七十萬セタールに對して本年度は百九十六萬セタールだから二十五萬セタール増加してゐる。つまり日本に於ける羊毛消費の高は多くなつたのである。  
 同時に濠洲から小麦も入つてくる。濠洲から日本への主要輸出品は左の如くである。

	一九三四年	一九三五年
羊毛	一二、一二七、六二一磅	八、六八〇、一一九
小麦	一、〇四二、二三四	二、二七三、〇九二
タロウ	一五七、五九三	一七四、〇一七
鐵 鑽	二五、八〇四	一四〇、五三五
鐵鋼屑	七六、九四五	一三七、九三四
亞鉛	一一二、九三〇	一六三、五四二

則ち濠洲の小麦をはじめあらゆる品目が日本へよく賣れてゆくのである。濠洲としては、羊毛や小麦の供給地である日本へ關稅政策などをかけることは出来ない。一方日本からの輸出も下の如く旺盛で兩國の關係は有無相通じて結構だと思ふ。

絹及人絹物

一九三四年 一九三五年  
一、五二〇、九七八磅 二、〇五三、九四二

綿織物

五八〇、六一七 九五四、〇〇五

タオル

四五、三九五 三七、四二五

陶磁器

一三八、九〇二 一六二、九二三

玩具

七四、〇〇四 八六、一〇四

硫黄

六六、七二五 七一、八二三

ガラス器

三三、九三八 三四、八五九

銅

二五、四五七 三一、〇九五

手提袋(女)

一三、六二〇 一六、八三六

### ○朝鮮各地の特産

京畿道の粟一萬八千石、忠清北道の烟草百六十萬貫内黄色種八十五萬貫百九十萬圓に上る。高麗胡桃六百餘石、忠清南道の苧布百萬圓、天安郡の砂金五十七萬五百五十萬圓、高麗胡桃全國生産の五〇%千三百石、二萬八千圓、宗魚扶餘郡白馬江の特産で一尾四圓乃至十圓、全羅北道の粟百五十二町歩十三萬圓、群山の移出米二百萬石、不二農村の内地人集團、三百十八戸、一千五百七十三人。全州の大壯紙五十萬圓、高山の乾柿、雲岩貯水池の鮎、全羅南道日本種の米百六萬石、薄荷十六萬圓、綠肥ヘアリベツチの佳良、濟州島の椎茸、寒天、貝釦及び乾海苔二百萬圓、濟州島の粗製沃度三七三五封度、玉埋山のアルミニウム原礦、濟州島の枸杞と山茶莢、慶尙北道の米と麥各二百萬石、蘭二千二百萬石、水産は鱒、鯖、アヂ、大刀、鯛、鱈等千五百萬

### ○支那の蜜柑

廣東省汕頭から潮安に通ずる潮汕鐵道の沿線に鶴集といふ部落があつて、二百年前に蜜柑の栽培を始めたが、爾來この鐵道一帶潮安縣は支那の蜜柑の産地となつた。その種類の一は蜜桶柑ともいひ木は高く葉も果も大きい、皮部粗悪で皮部と肉部との間に空壁があつて、貯藏に堪へず、樹齡二十年。二は招柑といふ、葉小にして尖り樹木も矮小である、枝木外方に伸び果熟すれば枝がたれて地面に満伏する、果實の皮部粗悪で肉部小い、熟するに及び皮部滑面となり果汁多い、收穫直後は苦味がある、二三ヶ月間貯藏して甘くなる、長期の貯藏に堪ふるはこの種の特色である、根淺く樹命十年。三は雪樹といふ橙の類で皮と肉と密着し酸味が多い、九月下旬熟する、樹命四、五十年だが、栽植は少い。四に朱柑といふのが色紅にして美、皮部光澤があ

るが肉が小さい、近時之をつくるもの稀である。栽培面積一千八百町歩、生産高は年四五百万元に達し九月下旬から十一月上旬まである、栽培方法は水田と畑地で行ふが（一畝二百四十歩）に九十本乃至百本をつくる。害虫驅除など幼稚な烟草の粉を水に加へて噴霧器でふりまく程度である。

輸出向は香味を帶たるときに採取して油頭から荷造りして送くり出す、品質は臺灣の産よりも稍々大にして甘味多く肉部大である。蜜柑と招柑の二種が主として栽培せられ、廣東

上海、新嘉坡、安南、南洋方面に仕向け十萬擔内外を出す。

柑橘類は一般住民に好まれ、年末年始の時期に贈答品として利用されるので熱帯地方の需要が多い出盛の時は百斤につき十七元内外であるが、品薄となると百斤三十元にも上る、上海や安南方面へ行くものは主として上品である。恐らく將來指導宜しきを得たならば生産力の増大をみるであらう。

### ○支那の油頁岩

油頁岩に二種ある、一は瀝青頁岩で多くは石炭嶺附近に産す、滿洲撫順の油頁岩はその例である。

一は石油頁岩で灰色又は薄褐色の片状をなし、炭素及有機物を含む、前者より得る油料は環然炭氣質であり、後者より得るものは鏈狀飽和炭氣質である。油頁岩一噸から三十ガロン乃至四十ガロンを得るは良質で十八ガロンをうるものは之につぐ、採取方法は多く乾溜法である。支那では油頁岩工業は未だ緒につかない。目下發見されてゐるのは、廣東省の茂名、欽州、陝西省の安定、横山、山西の清源等であるが、最近四

川の屏山、隄爲等に多量に埋藏されてゐるのがわかつた。

陝西で發見された頁岩は近年政府も開發を計畫し、礦床は北は横山縣東南の麒麟溝から南は膚施安定二縣間の蟠龍鎮に達する約百キロに渉るもので其埋藏量は十億噸に達する。北平地質調査所の計算によると一噸から二十三ガロンとして、

支那で毎年八百萬噸の油頁岩を採掘すれば、支那現在の輸入燃料油一億八千萬ガロンは容易に防止できるといふことである。しかも横山一帶の油頁岩は毎噸平均五十三ガロン以上の含有量で世界での富礦の一であるといふ。次に四川省の油頁岩は技師學會の入川調査によつて發見されたが屏山縣所産の油頁岩は毎噸三十ガロンの採油可能である。滿洲國撫順の毎噸一二、二一ガロンの含油量に比し遙に優秀であるといはれる。而かも三十噸の原油中から五噸の揮發油六噸の石油及三十一噸の硫酸アムモニヤがとれる。隄爲縣の油頁岩は含油量が少いけれども、毎噸一九ガロンに達する。尙廣東欽州の油頁岩も含油量は豊富で二〇、八四ガロンを算すといふことである。

### ○支那の石油

陝西の石油は古くから發見されて居るので、石油は陝西系灰色砂岩内に含まれ陝西系地層の露出して居る東方延川、延長、宜川の諸縣から西方安塞、膚施、甘泉、鄜、中部、宜君、同官の諸縣に跨り殆んど陝西の二分一に及ぶ。既知油田は三十五箇所八縣に涉つて居る。しかし民國三、四年頃スタンダード會社が二百五十萬元で七ヶ所試掘

して各三十尺以下に達したが、結果は良くなかつた。

陝西現在石油採掘及精練工場は僅に延長の石油官廠が稍々成績をあげてゐる丈で、五井を有し、最深六百呎で、一番新しい五郷井は最豊富で日産一萬斤にも達したが其後増減を繰返し最近は日産僅に百斤乃至五百斤に過ぎない。設備機械の大半は日本製と謂はれてゐるが鑿井方法は衝擊法である。製煉廠には一郷段式蒸溜鍋が八千斤、二郷蒸溜鍋は二千斤の原油を所理する。

石油運搬及販賣について陝西北部地方は山岳重疊して道路又崎嶇、交通不便で、石油一桶毎百支里の運賃は三角五分にも達する。黄河は水が急で溯航が出来ない。産油の旺盛な時代には山西州方面の外油輸入を阻止した位であつたが、今日ではさうした力はない。販賣価格は一等每桶四元五角より最低三元、二等は三元から二元五角である。

四川省の石油は其の正確な埋藏量は不明であるが現在存する産油區は沱江沿岸の富順縣の六井と資中縣榮縣の二井であるが、岷江、涪江、涪陵江にも産油地がある。富順の石油井

は瓦斯を出すので鐵管で民家で使用してゐる。民國二十一年に百八十餘箱が出た、問題にはならぬ。

貴州省の石油は龍里、貴陽兩縣の境界附近の泡木沖に出る相當以前から知られてゐるが正確にはわからない。

西康及新疆の石油のうち、西康省寧靜山一帶の油田は曾つて英國人や露國人が數回の探査をしたことがある。この山の附近では山間の泉にも油質が浮び火をつけると立所に燃焼するといはれ、ある一英人は此一ヶ所の石油丈でも全世界三百年の用に供し得るだらうとさへいつた。

新疆の油田は既知のものゝ庫車、馬蘇、綏來、迪化、塔城沙洛、溫宿、疏勒の諸縣であるがその開發は目下停頓してゐる、天山附近にもあるらしい。

### ○寺田博士の計

我が國地球物理學の泰斗にして且つ文名噴々たりし寺田寅彦博士は舊臘晦日薨去された。小川琢治博士は我が地球學團の名を以て新年に至りて弔詞を遺族に送られた。